



第114号

社会福祉法人
 ロザリオの聖母会
 発行者/細渕宗重
 千葉県旭市野中4017
 Tel (0479) 60-0600
 ホームページアドレス
<http://www.rosario.jp>
 Eメールアドレス
 honbu @ rosario.jp

年頭所感

理事長 細渕宗重

新年に当たり、職員の皆さんにご挨拶申し上げます。

昭和22年(1947)に始まり63年に及ぶロザリオの聖母会の歴史は小原ケイ・中澤喜み子・長岐久子・和田ハツ江という流れの中で作られてきました。今はじめて、この方々のいない年が始まります。

伝統に根ざしながら、変化する新しい社会環境の中で、ロザリオの聖母会らしい花を咲かせていきたいと考えています。

伝統を大切に

私どもは誰も自分の親を自分で選んだ人ではありません。われわれは自分が生まれた環境を肯定し、これを大事にすることから人生が始まります。自分の生まれた環境から逃れられる人はいません。

人に個性があるように、法人や施設にも個性があります。これは長い歴史の中でこの事業にかかわった人々の汗や涙、そして苦しみや笑いなどさまざまなもので織り成されております。戦後の小原ケイ

所長から数えて63年ですが、戸塚文卿神父がこの地に結核療養所を開いてから79年になります。

私たちはこの伝統をもう一度確認し、誇りを持ちたいと思います。この歴史を大事にして新しい時代に立ち向かうことにいたしたいと思います。

幸せを目指して

私たちは福祉の仕事をしております。「福」も「祉」も幸せという意味です。私たちは人を幸せにする仕事をしていきます。人々が幸せになってほしいと願って毎日仕事をしています。しかし、自分が幸せでない人が他人を幸せにすることができません。

ロザリオの聖母会はひとびとが幸せになるように願って日々の仕事をしておりますが、同時に職員の仕事をお願いします。ですから私どもは、障害のある人々と、そのために働く職員がともに幸せであるような「場」を作りたいと願っているのです。

地域の方々とともに

このような、幸せ追及の「場」をどのようにして作るかという点とです。

具体的な福祉の形は時代とともに、また地域によってことなりま。新しい時代の事業は地域の人々とともに展開されます。それは地域の人のための福祉事業であることが一義的にあります。そして、必要で可能なら、広い地域の方々のために・・・。

「世界の平和」を唱えて努力する人が隣人との関係には無頓着という矛盾があつてはならないと思うからです。

そしてそれを推進する「精神」が伝統に培われた精神なのです。

目の前には、皆さんの力を必要とする障害を持つ人々がおります。ロザリオの聖母会の事業は皆さんの力がないと遂行することができません。どうか、自分の幸せを大事にしつつ、人々のために働く日々であることを祈りたいと思います。そしてロザリオの聖母会が、そこに入所している人・そこへ通所する人だけでなく、地域の役に立つものでありますように。



ワクチンが足りない

海上療養所 医局長 佐多 範洋

世界中をびっくりさせた新型インフルエンザ。日本でも当初は空港で必死の検疫が行われていたが、今では多くの人が感染し、それほど珍しくなくなってきました。致死率も0.001%以下で、これまでのインフルエンザよりも低いと言われています。

しかし病原性について分かったのは最近なので、昨年は限られた量のワクチンを求めて多くの先進国が争奪戦を繰り広げました。日本はワクチンを自国で生産できる数少ない国のひとつですが、それでも足りない分は外国から輸入することにしました。しかし世界には、お金がなくてとてもワクチンなど買えない国も少なくありません。今回はそういう国のことについて、飢餓のことも含めて少し書いてみたいと思います。

写真はスーダンで1993年に撮られた、「ハゲワシと少女」という写真です。そこには11〜12歳の

少女が写っています。飢餓でやせ細り、4〜5歳の子供にしか見えません。その子が力尽きてうずくまっている背後に、その子を狙っているハゲワシが写っています。ハゲワシは死んだ動物の肉しか食べないので、その少女が死ぬのを待って、後ろからひそかにつけてきたのです。



実はこういった出来事は、私たちと全く関係ないところで起こっているわけではありません。同じ年、日本はスーダンの人々の主食であるソルガムという穀物を、大量に輸入しています。もちろん私たちはソルガムなんて食べたことはありません。それではいったいどうして輸入していたのでしょうか。それは、やわらかい肉質の家畜を作るために、家畜の

えさとして輸入されていたのです。

これはとても悲しいことです。もしこの少女が自分の家の隣に住んでいたとしたら、その子の食料をとりあげて、自分の家畜のえさにするのでしょうか。

日本の食料自給率は40%以下ですが、もし全く輸入できなくなると、1人あたり2000kcal摂取できるそうです。これは大人一人が必要なカロリー量とほぼ同じです。

実は、日本は世界一残飯を捨てている国で、その量(1940万トン)は世界の食糧援助総量(740万トン)をはるかに上回っています。もし日本が捨てている食料を貧しい国に配分することができたら、世界中の飢餓の人が助かるとも言われています。

話題を少し変えてみます。エイズというのは怖い病気ですが、感染者のほとんどはアフリカもしく

は東南アジアに住んでいます。南アフリカ共和国でさえ、一時63歳だった平均寿命が、エイズの影響で現在では45歳にまで落ち込んでいます。そこに住む人たちのやるせなさは、いかほどのものかと思えます。彼らにとっては新型インフルエンザは命を奪いかねないものですが、高価なワクチンや治療薬を手に入れることはできないのです。仕方がないのかもしれませんが、あまり必要でない人がワクチンを買ひ占めて、より必要な人にワクチンが届かない、本当にこういう現状が世界の正しいあり方なのか、つい考えてしまうのです。

エチオピアは最貧国の1つですが、そこでは小学生でも食料援助で久しぶりに手にした食料を、次はいっ手にできるか分からないにも関わらず、もっていない人に分けてあげようとするのだそうです。一方日本は世界で有数の豊かな国になりましたが、自殺率も世界のトップクラスが続いています。私たちは多くのものを手に入れたようでも、ひよっとしたら大切な何かを、置き忘れてしまっているのかもしれない。

創立記念日を迎えて

法人本部事務局 石毛敦

本年10月7日、本会の創立記念日行事として、第一部・永年勤続者表彰式及び第二部・記念講演会を開催しました。第一部の永年勤続表彰では勤続20年、10年を迎えた職員を対象として賞状及び金一封の授与を行ない、第二部の記念講演会は、カトリック東京教区の森一弘司教様を招聘し、「愛とは何か」という演題の講演会を開催しました。

愛とは、「他者を中心とし、他者が自分の心を占め、心が動かされている状態」、言い換えれば「他者を喜ばせること」であり、愛の対極とは、「自分の欲望を満たそうとし、欲望に心を囚われ、他者を排除すること。」と愛の定義から講演が始まりました。

続いて、「他者が喜ぶ姿を見て、自分も満たされ、自分の存在が意味を持つ」と愛の重要性、必要性について話され、さらに愛の定義を敷衍して、「愛とは他者を喜ばせること」であるならば、「人が喜ぶ」とはどのような状態であるか、人

は何を求めているのかと論理的、分析的に発展していききました。

「人が喜ぶ」状態とは、①柔らかなで棘のない暖かなものに包まれる、②自分がかけがえのない存在として肯定される、③他者に触れる、他者の心に触れる、④自分の可能性が開花される、以上の4つに分類されるそうで、これらについて具体的な事例に基づいて解説され、抽象的、宗教的な愛の定義、分析に留まらず、具体的、世俗的に愛を実践する方法まで踏み込まれ、非常に勉強になった講演でした。

森司教様、お忙しいところ、本当にありがとうございました。



障害者週間記念講演会より

聖マリア園園長 加瀬政衛

12月2日(水)、聖母通園センター2階ホールにおいて、「障害者週間記念講演会」が行われました。講師には社会福祉法人千葉県聴覚障害者理事長の植野圭哉氏を招聘し「聴こえないとはどういうことか」という演題の講演会を開催しました。

「手話というコミュニケーション文化を持つ、ろう者の世界」に始まる「多様多岐にわたる名称」から「ろう者への支援策」に至るまで、レジュメを使用。パワーポイントを活用し、手話通訳者を交えながら「ろう者の文化・手話の文化・ろう者の歴史・ろう者の運動」について幅広く話をされ、質問等も設けられるなど有意義な講演会となりました。

制約された時間のなかでの植野先生のお話でしたが、ひたむきで誠実なお人柄を感じる事ができました。

植野先生の講演を通して、また身体障害者療護施設で働く一職員として、①しあわせに暮らす障害

者としあわせに働く職員がみられる施設の実現をめざして②障害者や高齢者がふつうに暮らせる地域福祉社会の実現があげられる。

私達の道のりは、果てしなく遠く険しいが、志を尊く強く正しく清くもちながら日々の仕事に励みたいと考える。そこに待っているのは、地域福祉社会であり、自己実現の完成であろう。そのことは、障害のある人もない人も「ふつう」の生活ができることを願っているといえよう。

障害者週間の行事を終えた今、いつの日にか必ず「社会の中心に福祉があり、政治の中心に福祉があり、生活の中心に福祉がある」ことをせつに願ってやまない。このことは施設に即して言えば、利用者満足・職員満足・経営満足であると考える。



友の家・旭障害者支援センター統合に向けて

友の家 所長 鈴木浩

はじめに

昨年の政権交代で、障害者自立支援法はその存在が揺らいでいますが、悪法と呼ばれながらも、法が示す「相談支援事業」と「地域自立支援協議会」は、その地域の取り組みしで、「地域づくり」の面で、限り無く発展しうる可能性を持つものであります。

今回は相談支援事業について現状と今後に向けての取り組みを報告させていただきます。

現状から

海匝地域の相談支援事業の現状をみると、銚子市は市役所の障害福祉課が直営で行っており相談支援事業所はゼロ、旭市は友の家と旭障害者支援センターの2カ所、匝瑳市には聖マーガレットホームの1カ所であります。

個々の相談支援事業所をみますと、友の家では海匝地域3市の精神障害者を中心に相談支援・地域移行支援（退院促進）を行ってきました。旭障害者支援センターは、旭市内の障害者全般といっても今

までの実績から知的障害者・身体障害者を中心に相談支援を行ってきました。

他市の例から

現在、市川市で行っている事業で、「基幹型支援センター」があります。昨年お伺いして勉強する機会がありました。市川市が委託する独自の基幹型ではありますが、3障害を一元化し、市川市内複数の相談支援事業所の中心的な存在であるべく活動中であります。3障害一元化に意義のあることで、国の構想も「基幹型」を打ち出しています。

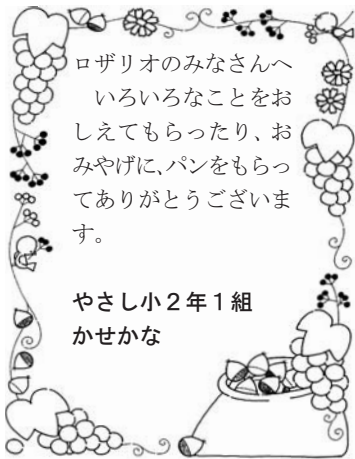
今後の取り組み

昨年10月より、旭障害者支援センターの事務所を友の家に移行し、所長を友の家と兼務することとなりました。

3障害の相談支援を同じ場所で行うことから始め、4月の統合に向けて現在準備を進めているところです。その後は、モデル事業を受託し、「基幹型」の確立を目指していきたいと思えます。

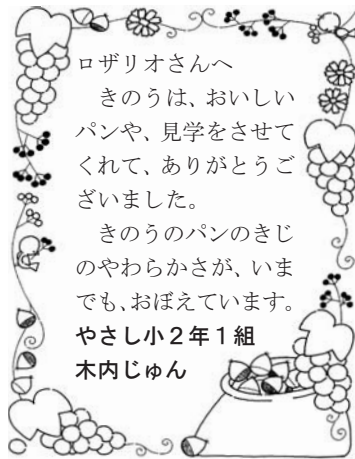
矢指小2年 まちたんけん感想文

旭市立矢指小学校2年生の児童5名の方が、生活科の学習として、みんなの家を見学されました。その後に寄せられた感想文をご紹介します。



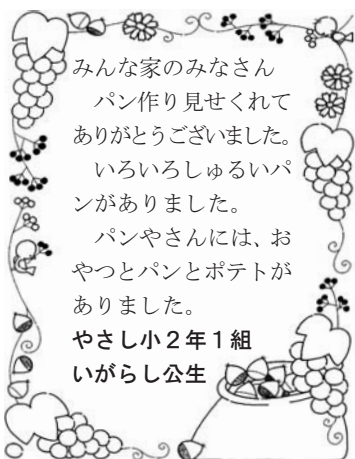
ロザリオのみなさんへ
いろいろなことをおしえてもらったり、おみやげに、パンをもらってありがとうございました。

やさし小2年1組
かせかな



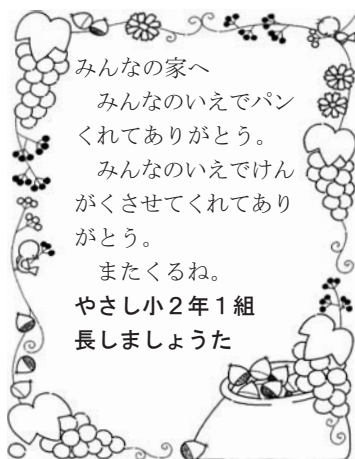
ロザリオさんへ
きのうは、おいしいパンや、見学をさせてくれて、ありがとうございました。
きのうのパンのきじのやわらかさが、いまでも、おぼえています。

やさし小2年1組
木内じゅん



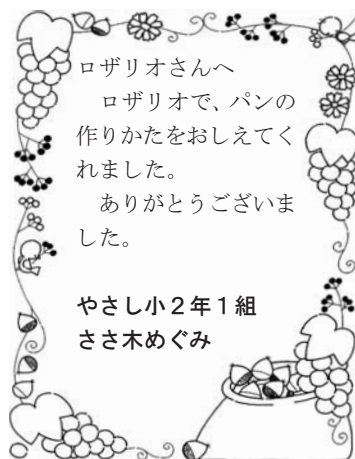
みんな家のみなさん
パン作り見せてくれてありがとうございました。
いろいろしゅるいパンがありました。
パンやさんには、おやつとパンとポテトがありました。

やさし小2年1組
いがらし公生



みんなの家へ
みんなのいえでパンくれてありがとう。
みんなのいえでけんがくさせてくれてありがとう。
またくるね。

やさし小2年1組
長しましょうた



ロザリオさんへ
ロザリオで、パンの作りかたをおしえてくれました。
ありがとうございました。

やさし小2年1組
ささ木めぐみ

萩園ハウス

世話人 伊藤淑子・午腸綾子

ロザリオの聖母会において、知的障害を持たれた女性用のグループホームとして初めに創られたハウスです。現在、女性4名が生活されています。



お隣が大家さんと言う事もあり、町内のお祭りや町内清掃等にもみんなに参加し、ここ数年で本当の町内の一員としてそれぞれの方が生活をしています。

平日は、働かれています方や通所の事業所に通われる方、日曜・休日はヘルパーさんと一緒に買い物に行ったり、プールに行ったりと楽しんでいきます。

飯岡の海岸に近く、2階の部屋からは海を見ることができると、本当に良い環境です。毎年行われている飯岡花火大会の時などは絶景です。

みんなの家物品寄付

イオン株式会社旭店より寄付

イオン株式会社旭店より、左記の物品の寄付をいただきました。

「マスク」「ウエットティッシュ」「インフルエンザが猛威をふるう中、配慮ある寄付をいただき心より感謝いたします。」

社員の皆様に、心より御礼申し上げます。

イオン株式会社旭店より寄付



ノースウエスト航空より、食器・ガラス食器の寄付をいただきました。「喫茶ひまわり」にて利用させていただきます。

ロザリオの聖母会

平成21年度永年勤続表彰

継続20年

継続10年

- | | |
|--------|-------|
| 中村 雅彰 | 加瀬 美里 |
| 白井 正和 | 伊藤 和枝 |
| 高安 きみ江 | 山岸 学 |
| 加瀬 敏雄 | 大石 智也 |
| 伊藤 美智子 | |

ボランティア感謝式受賞者

平成21年度ボランティア感謝式の受賞者に、賞状と、ささやかな記念品をおくらせていただきました。受賞者は次の方々です。

- ・ファットベルズ 清水英州様
- ・やきとり新喜 石橋良昌様
- ・名雪 ちえ子様
- ・神宮寺ソフトクラブ 林俊介様
- ・光園芸 石毛光男様
- ・日本ボーイスカウト千葉県連盟 香取東総地区 旭第2団 団委員長 松本勝様
- ・ガールスカウト 日本連盟 千葉県第69団 高橋若子様

ご協力ありがとうございました。



寄付者御芳名

平成21年
9月16日
～
12月17日

高野丈夫 小島昭三 飯島重雄 かどみせ文具店 ◆ 穴澤徳司 柴田節男 千代原嘉子 加瀬裕子 加瀬政伸 泉川伸雄 田中瑞雄 黒崎弘康 本宮敏雄 鈴木峰雄 小原明雄 常世田男 秋山茂樹 府馬和歌子 府馬宏枝 石井門作 小倉きん 山田知恵子 伊藤勝治 田村照夫 鎌方勝夫 宇井千代子 小宮和彦 寺嶋光三 小嶋昭恵子 嶋恵美子 武井茂子 車谷順子 (株)石川商会 ちば醤油(株) 保坂芳子 大木敏子

新任者紹介

聖家族園 支援員 聖マリア園 支援員



並木晴美
1月より常勤になりました。優しい笑顔でみんな癒されます。みんなのお母さんの様な存在の方です。

椎名祐子
とてもユーモアに溢れる方で、仕事をテキパキとこなしてくれる心強い存在です。今後の活躍にも期待しています。

岩井庄一 佐々木日出男 安原包均 宮澤かね 鶴井幸子 石井房吉 伊藤昭夫 中澤公一 松田昭夫 魚山秀子 井上敬三 土手孝一 旭市 佐多市 佐多市 旭市 旭市役所環境課 土屋洋夫 聖心会ワイラ不二 浜野富美子 大山清子 日本カーソリューションズ(株) 谷三保子 鈴木実 聖心女子学院もゆる会 (敬称略)

友の家 ソーシャルワーカー 聖家族作業所 支援員



楠伸俊
32才の好青年です。もっか、旭市内の地理を知るべく、ナビを片手に全戸訪問に奮闘中です。近々、個別ケースも受け持つ予定です。よろしくお願ひします。

石橋典子
ワークセンターより異動されてきた石橋さん。笑顔が素敵な方で、早くも作業所のお母さん'的存在として利用者さんからも頼られているようです。



▲佐原聖家族園クリスマス会
「プロゴルファー目指してスイング・スイング！」



▲みんなの家忘年会
「大満足の食べ納め！来年は仕事がんばるぞ！」



▲聖マリア園クリスマス会
「ファットベルズの皆様すてきな演奏ありがとうございました」



▲佐原聖家族園クリスマス会
「佐原聖家族園 the 消防団。おれ達が皆をまもるぞ！」



▲聖家族園クリスマス会
「次は何をやるのかな？」



▲聖マリア園クリスマス会
「仲良しで～す！」



▲聖家族作業所クリスマス会
「クリスマスライブに備え、マラカスの練習中！」



▲聖家族園クリスマス会
「みんなで一緒に『ジェンカ』踊りました」



▲佐原聖家族園
「仲良しペア。司会は女の子らしくおしとやかにね」



▲聖家族作業所クリスマス会
「只今熱唱中！目指せ高得点！！」

行事予定

- 22. 1. 4 新年あいさつ会
- 6 対策本部会議、総合安全対策委員会
- 8 経営会議
- 15 経営会議、クリーンデー
- 22 法人運営会議、経営会議
- 27 地域生活支援会議
- 29 理事会
- 30 就職内定者研
- 2. 3 対策本部会議、総合安全対策委員会
- 5 経営会議
- 12 経営会議、クリーンデー
- 19 法人運営会議、経営会議
- 24 地域生活支援会議
- 27 就職内定者研
- 2. 3 合同研修会(研究発表会)
- 5 経営会議
- 10 対策本部会議、総合安全対策委員会
- 12 経営会議、クリーンデー
- 19 法人運営会議、経営会議
- 24 地域生活支援会議
- 24~25 就職内定者研
- 26 理事会、評議員会
- 4. 1 平成22年度辞令交付式、幹部職員顔合わせ会

ひとつづつ

私どもは毎日一生懸命働いていますが、どれひとつとっても完全なものはありません。今日完全といわれたものも、明日になると不完全になります。ですから、やることは山とある、ということになります。

あれをやらなければならない、それもやりたい、これもやったほうがよい。我々の身の回りには本当にやるのが山のようにあります。

しかし、我々は「ひとつづつ」を合言葉にやってきました。ゆっ

専用メールアドレスのお知らせ

ご意見、ご感想のある方は下記のアドレスまでお願いします。

koho@rosario.jp

くりでも「前進」はやめませんでした。結果、これまで、相当の仕事をやってきたように思います。ゆっくりでもよいから前進はしよう。これがみんなの合意でした。施設づくりでも、改修工事でも、イベントなどの行事でもそうでした。急ぐ必要はないので、マイペース、前進しよう。ただ、亀がウサギに勝ったのは、ゆっくりでも着実にゴールに向かっていったからです。

(ほ)

ボランティア募集のお知らせ

ロザリオの聖母会では、施設行事のために常時ボランティアを必要としています。

関心のある方は是非、ご連絡ください。ご協力をお願いします。お問い合わせ

TEL 0479(60)0600 (担当 仲條)

看護職員募集のお知らせ

精神科、障害児者医療に携わる看護師を募集しています。

◆随時面接を行っておりますので、本部総務課までご連絡ください
TEL 0479(60)0600 (担当 採用係)

編集後記

▼本号が発刊される頃は、冬本番を迎え、インフルエンザが猛威を振るっているかもしれせん。マスク着用、うがい、手洗い等々対策に努めましょう

(い)

精神科・内科(医療保護施設)	海上療養所	知的障害者通所授産施設	ワークセンター	地域生活支援センター	友の園	重症心身障害児施設	聖母療育園	重症心身障害児通園施設	聖母通園センター	障害児デイサービス	ふたば保育園	身体障害者療護施設	聖マリア園	生活介護事業所	聖マリアデイサービスセンター	知的障害者更生施設	聖家族	知的障害者通所授産施設	みんなの家園	障害者就業・生活支援センター	東総障害者就業・生活支援センター	生活介護事業所	聖家族作業所	高齢者支援事業所	ロザリオ高齢者支援センター	ロザリオ訪問介護事業所	中核地域生活支援センター	海匠ネットワーク	旭市相談支援事業	旭障害者支援センター	共同生活介護・共同生活援助事業所	グループホーム支援センター	知的障害者更生施設	佐原聖家族園	重症心身障害児通園施設	つどいの家	共同生活介護事業所	ケアホーム香取	香取市相談支援事業	香取障害者支援センター	千葉県委託事業所	香取グループホーム支援センター
----------------	-------	-------------	---------	------------	-----	-----------	-------	-------------	----------	-----------	--------	-----------	-------	---------	----------------	-----------	-----	-------------	--------	----------------	------------------	---------	--------	----------	---------------	-------------	--------------	----------	----------	------------	------------------	---------------	-----------	--------	-------------	-------	-----------	---------	-----------	-------------	----------	-----------------